

2025年
CTG

建交労道本部夏季開年速報

No. 1 / 2025年6月2日

〒060-0909 札幌市東区北9条
東1丁目北海道労働センター2F
TEL. 011(711)7377
FAX. 011(711)7388
e-mail/ctg.hokkaido@gmail.com

組織建設推進委員

第5回学習・交流プログラム

戦後80年、あるべき日本の姿

5月20日に、建交労「組織建設推進委員第5回学習・交流プログラム」がオンラインで開催され全国から80人が参加しました。今回のプログラムは、6月6日から開催される「建交労フェスタ in 広島」に向けた事前学習と位置付け、岡山県労働者学習協会の長久啓太事務局長を講師に「戦後80年を迎えた、あるべき日本の姿」と題して講義を受けました。講義の内容は、1868年の明治維新から始まり1945年までの「侵略と戦争」をし続けてきた日本の77年間と、戦争を放棄した戦後80年について「戦前・戦後」の歴史を学びながら、すべての人の尊厳をまもる社会をつくる皆こそが労働組合なのだという事を参加者と共有しました。

参加した旭川支部の春田美羽さんからは「歴史の授業で戦争のことは学んだが、教科書で習うのは現実味がなく、たくさんの方が亡くなったという悲しい悲惨な現実を日本人として何度も繰り返し学ぶことで、もう二度と戦争を繰り返さないんだと決意していくことが大切だと感じた。もしも同じ歴史を繰り返すことになった時、どうしよう、もう無理だと諦めるのではなく、同じ気持ちを持つ人たちと団結して声を上げていこうと思う」という感想や、函館支部の鈴木互さんからは、「世界情勢が安定しない中、平和活動として街頭宣伝に取り組んでいるが、戦争による犠牲者の一人ひとりの名前を読み上げるのに二年かかるということを知り、戦争の恐ろしさを自分の言葉で伝えていくことがとても大切だと感じた。道本部青年部がおこなう建交労フェスタに向けた平和学習会では、今日の学習会を参考にしながら、青年部として今後どのような活動ができるのか議論していきたい」という抱負などが寄せられました。

北海道鉄道本部が夏季一時金要求書を提出

北海道鉄道本部は5月20日に夏季一時金の要求書を提出しました。要求は「基準内賃金の2.0か月分」と「JR北海道で働くすべての社員に一律7万円支給」「エルダー社員の一時金について乗率1/2を行使しないこと」などです。

JR北海道「安全に関する労使合同会議」

5月29日にJR北海道「第46回安全に関する労使合同会議」が開かれ、北海道鉄道本部から竹田委員長と最上書記長が出席しました。今回の議題は、3月31日に北海道運輸局長から「鉄道の安全輸送の確保について」(改善指示)を受けて会社が講じた措置状況について報告されました。昨年11月9日に不適切な保安体制のもとで待避不良を発生させ、さらに虚偽の報告をした事象への対応で、4つの項目ごとに改善措置をおこなった内容が詳しく説明され、同じことを二度と繰り返してはならない会社の姿勢が現れていました。続いて、函館線森・石倉間の列車脱線に対するこれまでの取り組みと今後の取り組みについての説明のあと、意見交換がおこなわれました。建交労からはレールの腹部腐食について、これまでの事象報告の中で建交労が情報提供した踏切について、鷲ノ木道路踏切のみならず類似した環境にある踏切を「要注意踏切」と位置付けることを求める趣旨の発言をおこないました。安全を軽視している社員は一人もいないと思いますが、これまでの慣例と人手不足、時間が限られた作業のもとで「余裕がない」ことが一番の背景事情だと考えられ、克服するための課題に労使が一丸となって取り組みを進めるために、胸襟を開いた意見交換が必要です。